

令和4年度いずみ野地域ケアプラザPDCAシート公表用（事業計画書、事業報告書、事業実績評価）

— 総括表 —

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

【地域の現状】

・いずみ野地域ケアプラザは、いずみ野駅に隣接しています。駅前には商業施設や飲食店があり大変活気がある街となっています。クリニックも駅周辺には多くあり医療面でも恵まれた地域です。一方駅から離れると、買い物をするお店や病院が少なく、住宅街や農耕地が広がっています。弥生台地区は、戸建てが多く、多世代で居住している方も多い地域です。いずみ野・弥生台共にエレベーターのない集合住宅があることから、今後は高齢者の方々の、外出・通院・買い物といった移動に対する支援のニーズが多くなると考えられる地域です。包括支援センターには認知症に関する相談が多くなっています。

【今後の方向性】

- ・地域住民の方とともに、地域に必要な移動や外出支援に関する仕組みづくりをさらに進めます。
- ・地域住民の方とともに、「支え合いの仕組みづくり」を進め、生きがいに繋がるような活動を創生出来るようにします。
- ・地域の中で認知症に対する理解が進み、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりに取り組みます。

今年度の重点的な取組

新規
継続

— 具体的な取組内容 —

- | | | |
|-------------------------------------|-------------------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | ・令和2年度に立ち上がったサポーター「旧お出かけ手伝い隊」プロジェクトが「お出かけサポーター」の活動として拡がりを見せています。令和4年度は自主的活動へと移行して更なる発展を目指し、活動の担い手となる方が増えて生きがいに繋がる活動となるよう支援します。 |
| <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | ・近隣の福祉施設や公的機関と協力して、新たなイベント(スタンプラリー)を秋に開催します。また、ケアプラザまつりの開催や、いずみ野文化祭等のイベントを通じて地域住民の誰もが気軽に利用できる開かれた施設となるよう働きかけます。 |
| <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | ・横浜市における「チームオレンジ」事業に参画し、新たに若年性認知症当事者の方が集まる居場所を作ります。又、小学生を対象に認知症サポーター養成講座開催等実施して、若い世代にも認知症の方への理解が進むよう取り組みます。
すでに認知症サポーターになられている方には「ステップアップ講座」を開催し、活動の幅が広がるようにします。 |
| <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | コロナ禍の中、地域の方がICTを利用したコミュニケーションを図れるようにするため、小規模単位のスマホ講座を実施します。又、日頃からスマホ等の使用方法についてアドバイスできるようにします。 |

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

・「お出かけサポーター」が運営している「お出かけカフェ」は自主的活動へと移行し、順調に活動の幅を拡げています。

・10月に開催された「いずみ野文化祭」は和泉北部連合が主催でしたが、舞台発表や各ブースでの展示・販売は当ケアプラザを拠点として活動している団体が多いため、計画段階から開始に至るまで全面的に協力しました。又、11月のケアプラザ祭り「いずみ野わくわくフェスタ」は、地域の保健活動推進員や近隣の社会福祉施設、消防署の協力を得て開催し、地域の方や関係者等多くの方にケアプラザの周知をすることができました。

・横浜市の認知症施策「チームオレンジ」に参画し、6月から若年性認知症当事者の会「フレンドハーモニーの和」を毎月開催する事ができました。大船や戸塚から来られる方もおり、当事者中心のプログラムと家族間・専門職との情報交換など行っています。「認知症サポーター養成講座」を小学生や高校生に実施し、1月にはVRを使ったステップアップ講座を開催し、3月には中学校で開催予定です。

・ICTは年間を通じて開催され毎回好評でした。ICT関係で困った時はケアプラザに相談に来る人も増えました。

区からのコメント

・生活支援体制整備事業では、泉区アクションプランの着実な推進のため、区内生活支援コーディネーターが丸となって取組を進めていただきました。特に泉サポートプロジェクトでは、先進的な取組を市域で事例発表するなど活躍が見られました。次年度も地域課題の解決に向けた取組を進め、アクションプランの推進で大きな力を発揮してください。

・お出かけサポーターによるお出かけカフェは自主活動へ移行し、地域のニーズに沿って活動を展開しています。ボランティアの方が主体的に動けるよう、後方支援をお願いします。

子育て世代への交流場所、居場所づくりについて積極的に取り組んでいただいています。来年度以降も参加者数に応じた工夫等を行っていただき、更なる事業の発展を期待しています。

・チームオレンジ事業として6月より毎月開催している若年性認知症当事者の会では、当事者と家族に加え専門職などの関係者も参加し、情報交換の場となっています。今後も、当事者や関係者の支援と、正しい認知症理解推進に向けた事業の展開を期待しています。